

令和4年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人岡山文化芸術創造	
施 設 名	岡山シンフォニーホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	16,471	(千円)
	公 演 事 業	9,161 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,692 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,618 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	岡山フィルハーモニック 管弦楽団 定期演奏会	R4年5月22日他	出演：秋山和慶、太田弦、山下一史、松本和将、三浦謙司、宮田大、黒川侑	目標値	5,520
		岡山シンフォニーホール		実績値	4,320
2	ホールフェスティバル 「シンフォニーは友達！ 2022」	R4年8月8日	出演：米田覚士ほか 内容：ホスト(佐野秀典編)/「惑星」より “木星”ほか	目標値	1,000
		岡山シンフォニーホール全館		実績値	1,563
3	ベートーヴェン“第九” 演奏会 2022	R4年12月11日	出演：矢崎彦太郎、柳くるみ、大垣加代子、清水徹太郎、松森治、岡山第九を歌う市民の会ほか	目標値	1,600
		岡山シンフォニーホール		実績値	1,100
4	岡山フィルハーモニック 管弦楽団 ニューイヤーコ ンサート	R5年1月22日	内容：第1部/ワルツ・ホル勅集、第2部/喜歌劇「こうもり」ハイライト	目標値	1,380
		岡山シンフォニーホール		実績値	1,050

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミュージカルワークショップ	R4年4月～R5年3月	内容: しっかり学ぶコース、楽しむコース、 企画・制作補助コース 講師: 四宮貴久、扉座、深沢桂子ほか	目標値	252人(楽しむコース20人・しっかり学ぶコース32人・試演会入場者数200人)
		岡山シンフォニーホール他		実績値	266人(入場者200人、参加者66人)
2	あなたも岡フィルと共演 しませんか シリーズXVII I am a SOLOIST	R4年9月19日 中止	台風14号の影響により公演実施は中止。	目標値	810人(入場者800人、参加者10人)
		岡山シンフォニーホール		実績値	—
3	The MOST in JAPAN 2022 岡山公演	R4年10月10日	出演: The MOST、岡山市ジュニアオーケストラ 弦楽器メンバー 曲目: ブリテン/シンプル・シンフォニーほか	目標値	入場者800人
		岡山シンフォニーホール		実績値	517人(入場者500人、参加者17人)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小・中学校音楽鑑賞教室	R4年6月16日	出演：佐々木新平ほか 曲目：小六禮次郎/鳥城浪漫ほか	目標値	1000人
		岡山シンフォニーホール		実績値	1,324人
2	ファミリーコンサート	R4年8月21日他	出演：浦優介、岡山フィルハーモニック管弦楽団ほか	目標値	600人
		真庭エスパースホール他		実績値	573人
3	レインボーコンサート	R4年5月7日他	出演：岡山フィルハーモニック管弦楽団弦楽四重奏、吉井江里、今井忍、片山舜、樋口利歌、藤田恵子、Natsue、橘佳祐ほか	目標値	590人
		岡山シンフォニーホール他		実績値	757(配信視聴者数100人を含む)
4	岡山大学Jホールレインボーコンサート	※中止	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	840人
		岡山大学Jホール		実績値	—※
5	オペラ VS ミュージカル ～魅力の秘密～	R4年11月12日	出演：清原邦仁(講師・構成・テノール)、川崎泰子(ソプラノ)、角田奈名子(ピアノ)	目標値	80人
		岡山シンフォニーホール イベントホール		実績値	84人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

中四国エリアにおけるアコースティック音楽公演の中核ホールとして、座付きオーケストラを有する特性を活かし、オーケストラを最大限に活用した事業を中心にホールの内外において展開した。地域に根差した良質な実演芸術を創造することにより、子供たちをはじめ多様な対象者に向けて実演芸術に触れる機会をつくることを通じて、地域社会の活性化に寄与することを目的に事業を組み立てた。岡山フィルハーモニック管弦楽団（以下、岡フィル）は年6回の定期特別演奏会を実施。楽団のミュージックアドバイザーである秋山和慶氏のもと、質の高いオーケストラ公演を開催。「ニューイヤークンサート（公演）」では、前半をワルツとポルカ、後半を連続シリーズとするオペラハイライトとし鑑賞機会の少ないオペラへの関心を促す企画とした。コロナ禍で開催を見送った「ベートーヴェン第九演奏会（公演）」も3年ぶりに再開し、人数制限しつつも公募による合唱団員 60 人が「歓喜の歌」を歌い上げ、高い注目を集めた。オーケストラを活用し子供たちの心豊かな教育に貢献する事業（「シンフォニーは友達！ 2022（公演）」、「小・中学校音楽鑑賞教室」「ファミリーコンサート（普及）」や、実演芸術に触れる機会の少ない人々に向けた社会包摂事業（「レインボーコンサート」「岡山大学 J ホールレインボーコンサート（普及）」、若いアーティストの育成事業「あなたも岡フィルと共演しませんか I am a SOLOIST」「The MOST in JAPAN 2022」（人材）を企画。「ミュージカルワークショップ（人材）」では、基礎力を伴う人材養成のため、国内外で活躍する講師陣を専門別に招聘。毎週のレッスンと年度末の公演を実施。「オペラ VS ミュージカル（普及）」では、レクチャーコンサート形式でオペラとミュージカルを比較して学びながら、オペラとミュージカルの両方に親しんでもらうための企画とした。事業全体において概ね計画通りの実施であったが、「I am a SOLOIST（人材）」は台風接近による公共交通機関の運休を受け、公演を 2023 年 5 月に延期（前日リハーサルまでは計画通り実施したため、出演アーティストの人材養成における事業効果は得られたと考える）。「岡山大学 J ホールレインボーコンサート（普及）」は、会場が岡山大学病院内に位置するため、コロナ禍の続く状況において病院関係者以外での使用許可が得られず、全公演が中止となったが、3 月に病院内へのリモート配信公演を行った。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

**【文化的意義】**助成事業の実施により、岡フィルをはじめとした岡山の実演芸術の水準の向上や、オーケストラを中心とした実演芸術の地域住民の関心の高まり、実演芸術に親しみを持つ住民の裾野広げられた。地域への普及度を測る「身近な人にも公演を勧めたいと思うか」という観客アンケートでは、  
表1  
指標を取り入れた 2019 年度より継続して 90%以上を維持している（表1）。

年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
普及度 (%)	92.7%	90.4%	90.0%	90.0%

**【社会的意義】**助成事業を通して、子供たちの豊かな情操を育む取り組みや、家族間コミュニケーションの醸成、誰もが実演芸術に親しむことのできる社会包摂の取り組みに継続的に力を入れた。市内の小中学校 13 校が参加した「小・中学校音楽鑑賞教室（普及）」では、教員アンケートに「学校にも支援教室にも通えていなかった生徒が参加できた」との声があった。児童・生徒へのアンケートでは、参加者のうち 55%が「オーケストラの音色を初めて聴いた」と回答。鑑賞後の心の動きについても「うっとりした」（60.1%）、「心温まった」（54%）、「誰かに話したくなった」（28.6%）、「新しいことに興味を持った」（22%）など、子供たちの多くが心の変化を自覚しており、情操教育に大きな効果があった。地域コミュニティの活性化や多世代間の交流にも取り組んでおり、「第九演奏会（公演）」では公募の合唱団 60 名が約 7 か月間の練習を経て公演し、「ミュージカルワークショップ（人材）」では、36 名の受講生が毎週のレッスンを経て公演を実施。いずれも 10 代～70 代の幅広い年代、職業、背景の仲間が集まっており、日常生活圏と異なる人とのコミュニケーションが生まれている。

**【経済的意義】**演奏会への観客動員数は、徐々に回復している。「第九（公演）」の復活、「シンフォニーは友達（公演）」のチケット完売などからは、ホールへの来館を目的に人の流れが生まれており、その過程で経済の循環も生じていると推測される。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

目標を次のように設定し、事業を実施した。目標値と達成値を併記する。※ ■ は達成項目

表2 公演事業

目標No.	【公演事業】 目標の内容	目標値	達成値		
			2022年度	2021年度	2020年度
1	観客の公演満足度向上を目指す	93.5%	88.5%	88.1%	86%
2	子ども(10代以下)の観客割合を増加させる				
	観客割合(鑑賞型:定期・第九・ニューイヤー)	8%	7%	6%	4%
	観客数(参加型:ソフォニーは友達)	1000人	918人	1088人	-(中止)
3	市外からの観客割合を増加させる	38%	36.4%	33%	36.1%
4	社会包摂の取り組みでの招待者数を増加させる	200人	120人	105人	38人
5	岡山に愛着心・誇りを持てる割合 普及度(身近な人に公演をすすめたいか)	95%	90.5%	90%	90.4%
6	感染予防ガイドラインに沿って運営する	95%	82%	86%	—

表3 人材養成事業

目標No.	【人材養成】 目標の内容	目標値	達成値		
			2022年度	2021年度	2020年度
1	地域の芸術文化を担うアーティストの育成を図る (受講生の個人目標の達成度)	70%	59.1%	66.1%	65.4%
	(指導者から見た課題への取り組み達成度)	70%	75%	91.6%	91.7%
2	舞台活動に挑戦し、表現する機会を提供する				
	(ミュージックワークショップ 公演出演者数累計)	250人	257人	221人	186人
	(SOLOIST 合格者累計)	206人	207人	—	196人
	(MOST 合格者累計・共演者累計)	11人	23人	6人	3人
3	with コロナ時代にも活動を止めない(ワークショップ 中止件数)	0件	0件	—	—

表4 普及啓発事業

目標No.	【普及啓発】 目標の内容	目標値	達成値		
			2022年度	2021年度	2020年度
1	未就学児、青少年に本物の音楽体験の機会を提供				
	(「小中学校音楽鑑賞教室」参加率(累計))	48.9%(70校)	47.6%(68校)	45.4%(65校)	44.8%(64校)
	(初めての参加者割合)	56%	55%	52%	55.2%
2	子どもたちの変化(小中鑑賞教室 教員アンケート)	40%	49%	37%	54%
	気持ちに変化があった(小中鑑賞教室 児童アンケート)	63%	91%	90.5%	86.9%
3	出張公演(病院・福祉施設・支援学校等での公演) 公演箇所及び参加者累計	90か所 (8,444人)	86か所 (8,291人)	82か所 (8,098人)	83か所 (7,767人)
4	関連の公演を鑑賞したいか(ホライズミュージカル)	60%	56%	—	—

目標に対し達成できた項目は【人材養成】①②、【普及啓発】②であった。【人材養成】①「指導者から見た課題への取り組み達成度」については、「受講生の個人目標の達成度」との乖離が見られるが、受講生の多くがより高い目標を掲げ取り組んでおり、指導者はその姿勢と結果を高く評価したためといえる。【人材養成】②については、オーディションの結果予定数より多く合格者を選出したこと、MOST との共演者が総定数より多くなったことが理由である。【普及啓発】②については、子供達の多くがキャストに心を動かされたことが読み取れる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度はコロナ禍での規制も徐々に緩和されたことから、予定した事業はほぼ当初の計画通り進めることができた。ただし、合唱など声楽部門の事業[第九演奏会(公演)、ニューイヤークンサート(公演)]については、その時々でのコロナ感染状況を確認しながらの事業運営であったため、事業実施の変更はないが、内容については当初計画の変更(練習日程、練習会場、歌手の人数等)が生じた。また、開催場所の管理者によっては、コロナ禍における規制が異なり、計画通りに進行することが困難であった事業[岡山大学 J ホールレインボーコンサート(普及)、レインボーコンサート(出張、普及)]もあった。特に J ホールは大学病院内に位置する会場であるため、常時状況把握に努めたものの、年度末まで事業実施の可否がわからず、計画通りの進行とはできなかった(全公演中止)。

また、病院、福祉施設、支援学校等に出向いて演奏を行う社会包摂事業の「レインボーコンサート(出張公演、普及)」に関しても、開催可否の判断を会場に委ねざるを得ないため、会場の決定に時間を要した。岡フィルと若手リストが共演する「I am a SOLOIST(人材)」に関しては、台風 14 号の接近により、公演当日(ゲネプロ、本番)はやむなく中止となった。ただし、オーケストラからオーケストラ合わせまでのスケジュールについては、当初の計画通りに進めることができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

コロナ禍と台風の接近により一部実施できなかった事業もあるが、実施できた事業の事業費については概ね適切な積算で、計画通りに進行した。

【公演事業】申請時の事業費に対して実施後の事業費の変更率は-9.9%であり、それぞれ適切に積算し、進行することができたと考えられる。

【人材養成事業】全体の事業費は申請時に対して実施後の変更率が-30.2%となり、事業費に変更が生じた。この要因は台風の接近に伴う「I am a SOLOIST」の公演中止(次年度へ延期)であり、当初積算していた事業費の約 40%での実施となったためである。

【普及啓発事業】申請時の事業費に対して実施後の変更率は-40.0%となった。これはコロナ禍の影響により全公演中止となった「岡山大学 J ホールレインボーコンサート」が要因であり、全体の事業費の約 30%を占めていたことも影響していると考えられる。

## (4) 創造性

### 自己評価音

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当財団の有する最大の資源はアコースティック音楽の演奏に適した岡山シンフォニーホールと、県内唯一のプロオーケストラである岡フィルである。この2つの資源を最大限に活かすことのできるクラシックコンサートの開催を事業の中心に据え、コロナ禍においても活動を止めることなく事業を実施してきた。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の懸念から開催を見送っていた「第九演奏会（公演）」も復活し、オーケストラに加え市民による合唱が盛り上がりを見せた。「ミュージックワークショップ（人材）」においては、オリジナル作品に2か年に渡り取り組むこととした。2023年度に新たに開館する劇場（岡山芸術創造劇場ハルノリ）にて公演を予定しており、2022年度はプレ発表会として公演を行った。また、子育て世帯も気軽に鑑賞できる「レインボーコンサート・記念日コンサート（普及）」を2022年度から新規に開始し、低価格ながら目の前でアコースティック音楽の演奏を体感できる場を設け、音楽の裾野を広げる活動に尽力している。なかでも、敷居が高いと思われがちなかほらへの関心を促すべく開催した「おほらVSミュージカル（普及）」では、幅広い年齢層が鑑賞に訪れ、学びながら音楽を体験できる催しとして観客の興味を引き出した。この事業は「ニューイヤコンサート（おほらハイライト）（公演）」への導入の役割も果たしており、ホールでのオーケストラ鑑賞体験へ市民を促す一助となった。

**【公演事業】**世界的に活躍する指揮者・秋山和慶氏を岡フィルのミュージックアクトハイパーに迎えた今年度は、地元岡山の市民のみならず近県からも、岡フィル定期演奏会・ニューイヤコンサートへの高い関心を引き出した。「観客アンケートから測る満足度」では、88.5%が「大満足・満足」（前年度 88.1%）と回答している。「公演を他の人にすすめたいか」にて測る普及度でも、前年度に続き90%と高い数値であること、「市外からの観客割合の増加」では36.4%（前年度 33%）と上昇傾向にあることから、秋山氏に導かれた岡フィルの成長を応援する人々がファンとして定着しつつあることが推測される。今年度から復活した「第九演奏会」では、岡山にゆかりのあるリストに加え、コロナ禍のため人数を限定したものの60名の市民合唱団が熱唱した。マスク着用での歌唱であったが、「コロナの終わりを感じさせる演奏会でした」などの感想が聞かれ、本事業が市民生活に活気をもたらしたことが推測された。

**【人材養成事業】**「ミュージックワークショップ」では、今年度から2年をかけて創作作品に取り組んでいる。これまでにない挑戦であるため、33（出演は36）人の受講生の自己評価は厳しく達成度は59%（目標70%）であった。しかし、指導者から見た個人の達成度では75%（目標70%）であり、指導した講師からも「全体的に歌唱力の成長を感じた。」「受講生の皆さんがそれぞれにすごく面白い発想やアイデアを持っていることに初めて気づいた」など、新たな気づきがあったことがわかる。自分たちの手で作品を作り上げる取り組みは、学校や会社などの制約から離れた居場所を作ることにもつながっており、受講生や講師たちの視野を広げる試みにもなっている。「The MOST」では、初めて岡山市ジュニアオーケストラメンバー17名との共演が実現した。岡山出身のヴァイオリニスト福田廉之介氏率いる若手トップアーティストに並んでの演奏を体験したジュニアメンバーからは、71.4%が「練習から本番まで高い目標を持って取り組めた」、78.6%が「本番の演奏に満足した」との声が聴かれた。観客アンケートにおいても66.8%が「大変満足した」と答えており、ジュニアメンバーとそれを支えるアーティストたちが、楽しく音楽に取り組むその空気が観客をも取り込んだためと考えられる。音楽を通じて人間の成長を目指すジュニアオーケストラメンバーにとって、貴重な体験となったと評価する。

**【普及啓発事業】**岡山市内の小・中学生を対象とした「小・中学校音楽鑑賞教室」では、オーケストラを初めて体験した子供の割合が55%であった。0歳児から入場できる「ファミリーコンサート」では、真庭市公演50%、総社市公演79%が未就学児童であった。「オーケストラを聴く前と後での気持ちの変化の有無」では、91%が「変化があった」と回答しており、優れた音楽が子供たちに情動の変化をもたらしたことがうかがえる。また、親たちからも「子供だけでなく親も癒された」「これから大きくなるにつれて、心を育むものになると思っています」などの意見が聞かれた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

長引くコロナ禍に人々が徐々に慣れてきた今年度は、検温・消毒に留意はしつつも活発な活動を取り戻そうという世間の機運が感じられた。岡フィルにおいては、5月の定期演奏会から秋山和慶氏がミュージックアドバイザーとして就任した。また、ゲストコンサートマスターには藤原浜雄氏が就任した。秋山和慶氏の注目度は高く、地元新聞紙やTVでも就任に関する情報が取り上げられ岡山市民県民の期待を高めた。

「定期演奏会（公演）」後のアンケートでは「小学生の娘が熱心に聴き、感動した様子です」「初めてオーケストラの生演奏を聴いたので、迫力がありとてもよかった」「岡山でレベルの高い演奏が聴けた」などの回答があり、岡フィルの新体制による変化を地元岡山の人々が驚きと感動をもって受け止めてくれたことが推し量られた。年間を通じて定期演奏会の満足度は89%と高く、観客動員数も前年に対し215人増加した。子供の鑑賞割合も7.7%となり、徐々に若年層にもオーケストラが浸透しつつあることが伺える。

クラシック音楽と宇宙という異なるジャンルを取り上げた親子で参加できる事業である「ソフオーニは友達（公演）」では、クラシックコンサートとともに岡山県内の天文施設と連携した展示や岡山県立大学と連携したワークショップを開催した。異なるジャンルとの連携により初めての参加者は64%にのぼり、アンケートにおいて85%が「大変楽しかった・楽しかった」と回答した。感想では「子供と一緒に音楽をききに出かける機会があり、よかったです。星のことをパルを見ながら話しました。」とあり、本事業が親子のコミュニケーションの一助にもなる機会であったと考えられる。

今年度から再開した「第九演奏会（公演）」では、感染症対策に配慮しながらの練習やマスクを着用しての歌唱など困難な要因も多かった。感染対策のため60名に限定した市民合唱団は、しかしながら2年間の鬱屈を跳ね返すほどの熱唱で観客の感動を呼び、87%と高い満足度を記録した。「岡山市民として私自身も合唱団になりたいと思いました」「コロナの終わりを感じさせる演奏会でした」とのアンケートの声もあり、本公演が辛く長いコロナ禍を耐え忍んできた人々に希望をもたらす機会となりえたことが伺える。

音楽ホールに足を運びづらい環境にある方々や、医療従事者にむけて出張演奏や映像配信により音楽を届ける「ライブコンサート（普及）」を実施した。医療従事者からは「感染症対応等で辟易としていた心身の疲れが癒された」などの感想が聞かれた。リラックスした環境での演奏に合わせて、子供たちが自発的に踊りながら音楽を楽しむ姿も見られた。これらは、リラックスできる環境を整えることで、堅苦しいと思われがちなクラシック音楽であっても、誰もが気軽に楽しめるパリアフリーの芸術に変容していくことができるという可能性を感じさせる事象であった。

以上より、今年度の事業は、これまで培ってきた岡山における芸術を一層高みへと押し上げるとともに、様々な階層や分野を超えて柔軟にあり方を変えることで、誰もが楽しめる芸術を人々に広げ、地域文化を充実させるために機能したといえよう。そして、コロナ禍で閉塞感に包まれていた社会において、音楽が奏でられるホールや場に人々を誘う役割を、確かに担っているという手応えを感じることができた今年度事業であった。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

アコースティック演奏に特化した優れた音楽ホールと、座付きオーケストラ(岡フィル)を有する岡山シンフォニーホールは、交通の要衝である岡山市中心部にあるという立地もあり、中・四国地域の音楽文化を牽引する中核ホールとして30年を超えて運営を続けてきた。コロナ禍の苦境における経験をも持続的な組織運営を続けるための試金石として積み上げつつ、2023年9月に開館する岡山芸術創造劇場ハルワとの連携もふまえ、組織強化に励んでいる。

【事業運営】月報による職員からの企画アイデアや業務改善提案、地域ニーズの拾い上げを行っている。アートマネジメント担当のみならず、舞台職員や施設管理、総務系の職員など、全員が目標を共有して積極的に事業に関わっており、それぞれの立場や視点からの気づきやアイデアを取り入れることで事業運営に活かしている。

【経営戦略】事業価値や地域への貢献度を高めることにより、入場者数の増加や寄付金の獲得に取り組んでいる。岡フィルへの寄付金(賛助会費)は、年間約1,800万円であり、地域にオーケストラを有することの意義を伝え、理解を深めることに尽力している。

また、徹底した費用対効果を念頭に置いた予算管理により、最適な事業費で大きな事業効果が生み出せるよう取り組んでいる。

【人材戦略】専門職(アートマネジメント、舞台技術、施設管理等)を適切に配置し、事業を通じた人材養成(OJT)の他、各種研修への参加、目標管理制度の導入による職員育成の促進に取り組んでいる。学生のインターシップも積極的に受け入れており(2022年度:3校、総勢76名)、劇場・音楽ホールで働くことへの興味を引き出し、次世代の人材育成にも取り組んでいる。

【ネットワーク構築】事業を展開する上で、他館や教育機関(小中学校、高校、市・県教育委員会、大学)、他の文化施設、病院や福祉施設などとの連携強化を図っており、文化芸術を通して共に地域課題に取り組むことのできる体制を構築している。

上記をふまえ、当館におけるPDCAを次のように明らかにする。

【PLAN】劇場法や取り組みに関する指針、当館のミッションを再確認しつつ、前回の改善点を踏まえた事業立案を行う。企画にあたっては、アートマネジメントを担当する事業系の職員を中心に、会議にて活発な意見出しを行い検討を進める。

【DO】事業実施に向けて、チケット販売状況や予算執行状況を事業担当・経理担当他職員で共有し、広報戦略にも反映させながら、事業効果を最大限引き出せるよう努める。事業活動の実施にあたっては、事業担当職員を中心に、ホール内全職員が現場にてお客様対応に当たる。観客・参加者と直接触れ合うことで、事業の意義を確認するとともに、それぞれの立場における気づきを得る。

【CHECK】観客・参加者アンケートを分析し、結果をホール全職員に回覧。毎月の会議(事業部・オーケストラ会議)にて振り返り、反省点や改善点の洗い出しを行う。観客動員数や鑑賞者アンケートを参考に事業企画を練り直す等、月報(全職員)から事業改善提案や、それぞれの視点・立場での気づきや意見を共有する。

【ACTION】観客・参加者アンケートや職員からの提案をもとに、地域ニーズを洗い直し、次の事業計画に活かす。

当館ではこれらのPDCAをふまえ、職場内での定例会議にて議題に掲げ、積極的な意見交換を行っている。改善・挑戦に関する案については速やかに実施したのち、再び検証を行うなど迅速な対応を行っている。

当財団における事業を通じての組織活動は、新劇場(芸術創造劇場ハルワ)の開館を契機に、2館の特性を活かし、明確な役割分担と相乗効果により、岡山から中四国エリア全体を牽引する財団としての活動を目指して、組織運営を行って参りたい。